第18回 清月記SPECIAL対談

高橋 節子さんが語る「女性の生き方」

宮城県防衛協会女性部会の会長として自衛官との交流や支援活動をしている高橋さん。仕事でも仙台市卸町の合資会社高清商会で、経理を見る。元気で続ける秘訣は「とにかく外に出て人と会うこと」と語る。

「女性は身だしなみが大切です」

菅原　裕典
すがわら・ひろのり
1960年宮城県塩釜市生まれ。83年東北学院大学経済学部経済学科卒業。83年名古屋・中京葬儀社入社。85年3月、父・清一とともにすがわら葬儀社設立。89年仙台メモリアルサービス設立、社長就任。2000年エポックせんだい設立、社長就任。01年社会福祉法人無量壽会理事長就任。01年せんだい泉エフエム放送取締役。01年㈱清月記社長就任。10年宮城学院中学校・高等学校父母教師会会長就任。

仕事でも何でも、一生現役でいることが秘訣です

菅原　高橋さんは、生粋の仙台っ子とお聞きしました。

高橋　私が生まれたのは、青葉神社のすぐそばです。小さいときなのであまり記憶はありませんが、父母は青葉軒という中華そばやを営んでおり、その後、南町にあった栄屋旅館で勤めておりました。私が小学1年のときに荒町100番地に移り、荒町小学校に通いました。

菅原　ご主人との出会いはどちらで。

高橋　宮城学院中、高校を卒業後、経理専門学校で2年間勉強してから、東北大学病院前にあった丸金デパートに経理として勤めました。当時は女性の結婚年齢が早く、二十歳になるとすぐに、母が私の相手を探してたのです。母親どうしが知り合いという関係で、荒町75番地の高橋家に21歳で嫁ぎました。

菅原　嫁ぎ先が商売をやられてたのですね。

高橋　化粧品や雑貨などを扱っており、家族は13人でした。番頭さんが2人住み込みでしたので、朝昼晩の食事を作り、着物の上に割烹着を着て、毎日忙しかったです。

菅原　その後、会社は荒町から現在の卸町に移られたのですね。

高橋　はい、卸町に行ってからも、朝の7時には出ていました。主人が大の犬好きで、毎朝、犬と一緒に会社の回りを散歩しました。その後、会社に戻り朝食を摂りますので、会社の台所で朝食を作りました。

今でも会社では、社員の昼食時にいろいろな食材を入れた味噌汁を作っています。従業員の方も大切な家族の一員ですから。それが当社の伝統かもしれません。私は引退しましたが、今は長男のお嫁さんや事務員が作っています。お味噌も仙台のメーカーから直接樽で仕入れています。

菅原　今でも、現役で会社の経理をみてらっしゃいますね。商売をされていての思い出を教えて下さい。

高橋　商売をしていると、様々な方との交流が生まれます。それが楽しかったですね。それと、仕入れている企業からの招待で、日本中、いろいろな所に旅行にも行けました。

卸町に会社が移ってからは、これまでの倍くらい忙しくなったのですが、週2回、自分だけの時間を取れたときはとても嬉しかったのを覚えています。そのとき習ったお花とお茶は30年間続けることができて、免状もいただき、卸商センターで教えていたときもありました。これが、明日の活力につながりました。

菅原　ストレス解消でもあったのですね。

高橋　そうなのです。仕事との切り替えがうまくできたと思います。

菅原　ご商売をなされている方は、皆さんお若いですね。秘訣は何ですか。

高橋　仕事でも何でも、一生現役でいることです。商売に必要だからと、車の運転免許を取らせてもらったのですが、私は今でも自分で運転しています。それから自分の体は自分で大事にする、守っていくことです。特段の秘訣はありませんが、三食きちっと食べることと睡眠が大事だと思います。

私は、どこでも寝られますし、すぐに熟睡できます。あとは足腰を丈夫にしておくことです。とにかく外に出ることです。

菅原　高橋さんはご商売に向いているのですね。

高橋　学生時代に、三越の呉服売り場とか高山書店でアルバイトをしていたとき、私は商売は面白いなあと思っていました。きっと商売人が合っているのだと思います。人と付き合うことに対して積極的な方は向いていますね。

高橋さんのご家族。7番目のお孫さんの佐藤友里恵さんの成人式で。現在はお孫さん11人、曾孫さんは2人

自衛隊のおかげで、ファーストクラスの生活をしている

菅原　宮城県防衛協会の女性部会長にも就任されていますね。どのような活動をされているのですか。

高橋　仙台商工会議所女性会の初代会長の大原好子さんのすすめで、創設以来から入り、活動をしていました。自衛官の皆さまとの交流や、様々な自衛隊の行事に出向いて、支援活動を行っています。司令の方など幹部の方が仙台に着任されたときは、宮城県、仙台の味を楽しんでもらえるようなおもてなしをするなど、思い出を作ってもらうようにしています。とくに最近は、女性自衛官の方との交流も大切にしています。鶴戸会長時代には副会長をしておりました。現在の会員は50人です。

菅原　日本に住んでいる私たちは、ファーストクラスの生活をしているのだと思います。国防も治安もしっかりしている国は世界中どこを見ても日本が一番だと思います。その中で生活し、仕事もできるという最高の幸せですし、多くの自衛官や警察官の皆さまの普段はなかなか見えない仕事のおかげなのですね。

高橋　治安が良ければ、安心して商売も何でもできますものね。とくに、今回の東日本大震災では、自衛隊の活躍は素晴らしかったですね。

砕氷艦「しらせ」の石巻寄港時(2013年8月31日)。左は航空自衛隊第4航空司令の有馬龍也松島基地司令空将補、右は横須賀地方総監の武居智久海将

菅原　最後になりますが、若い女性に伝えたいことをお願いします。

高橋　義母からよく言われたことなのですが、女性はやはり身だしなみをきちっとすることだと思います。私はこのことをきちっと守ってきましたが、まったくその通りだと思います。オシャレの前の身だしなみです。

菅原　地元で長く商売をされてきている高清商会さんの心意気がよく伝わってきます。経営者の方のお顔が見えること、地元企業の強みはそこにあると思いますし、そうした地元企業とのお付き合いをこれからも長く続けたいと思います。

清月記本社で

高橋　節子さん
たかはし・せつこ

1936年、宮城県仙台市青葉区木町通りで、父荒川牛蔵秀夫氏と母トクエさんの次女として生まれる。牛蔵さんは栃木県佐野市生まれ、仕事の関係で山形県尾花沢出身のトクエさんと知り合い、節子さんが生まれる前は、仙台の青葉神社の通りで中華ソバの「青葉軒」を営む。

●小学1年生時に、仙台市若林区荒町に居住。荒町小から宮城学院中、高を卒業。経理専門学校で学んだ後、東北大学病院前にあった丸金デパートに勤務。

●高橋勇氏と結婚後、婚家の合資会社高清商会(現在仙台市若林区卸町)の専務取締役として経理を担当する。

●2013年から鶴戸清子会長の後を受け、宮城県防衛協会女性部会長に就任。

●茶道裏千家「宗節」の茶名を持ち華道龍生派教授でもある。